

明治の国際人 浅田栄次博士の顕彰碑建立さる

渡 邊 金 愛

An International Figures in Meiji

: Dr.Asada's Memorial Was Built

WATANABE Kaname

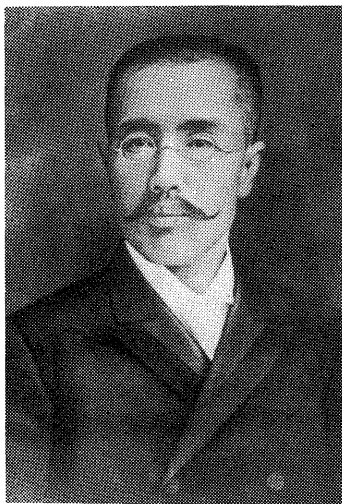
伝 記

明治の国際人

浅田 栄次 について

渡 辺 金 愛

1. はじめに



浅田 栄次

浅田栄次は、わが国の英語教育を史的に考察する場合、忘れることのできない先覚者の一人で、天才的語学の達人であったとされる。

後に英語教育の大御所となった岡倉由三郎は、かつて言語学等の分野から英語教師として立とうとしたとき、その目標とした人物は、実に浅田栄次であったといわれる。

その浅田は、明治中期に渡米してシカゴ大学で開学第1号の博士号を取得した偉才であり、明治における語学界のパイオニアであったばかりでなく、神学（特に旧約聖書学）を極めんとした国際人でもあった。

「白鷗大学論集」に浅田栄次をとりあげることは、その性格上一見適当でないように思われるが、外国語と国際化を重視する本学として、いささか意義あることと考える。

かつて、海外研究先として、米国のシカゴ大学を選んだとき、私はまだ白鷗大学に奉職していなかったが、亡くなられた上岡学長の許へご挨拶に参した。在米中、若干の報告はしたが、帰国後、その間のことがどのように進展したかについて未報告の点があった。そこで、このたびの論集が上岡学長

て唯一のもので、文部省が浅田に編纂を託したものである。

明治42年に出たAsada's English Readersは、当時は無論のこと、その後の日本の英語教育界に多大な影響を与えた。

大正3年12月に刊行された「英語和英諺語辞典」(DICTIONARY OF PROVERBS)は、彼の業績中最も注目すべきもので、わが国英学界に大きく貢献した。

浅田は単なる学究にとどまらず、教科書調査囑託、文官高等試験臨時委員、文部省視学委員などとして東奔西走、その英語教育は科学的、实际的で、“読み”、“書き”だけではなく、“話す”ことも重視し、現代の英語教育の範となるものである。

彼は、日本の英語教育を担える国際的人材の育成につとめたが、門下からは、例えば彼の学徳を慕って外語大に入った郷土の徳山出身者だけでも、辞書を編纂した英語学の岩崎民平(東京外大学長)、英文学の石田憲次(京大名誉教授)など、わが国の英語学・英文学を代表する逸材を輩出した。

※ 神田乃武(かんだないぶ)

明治・大正期の英学者(1866~1923)で、アメリカに留学後現在の外大学長などをつとめた。夏目漱石の師でもある。

2. 顕彰碑の建立

・浅田とシカゴ大学

平成13年(2001年)8月1日、燃えるような暑さの中で、明治の国際人・浅田栄次博士をたたえる顕彰碑の除幕式が、新装成った東京外国語大学府中キャンパスで行われた。大学を始め、関係者の待ちに待った日である。

前にも書いたように、浅田栄次という人は、シカゴ大学で始めて博士号を取得し、現在の東京外国語大学の草創者の1人であり、日本で始めての文部省英語教科書を編纂した人である。シカゴ大学は、アメリカの中西部に位置し、大学院生を中心とした国際的大学である。ノーベル賞受賞者が

創立以来何十人とおり（ハーバード大学の約2倍）、中でも経済学賞に至っては、サイモン、フリードマン、ベッカーなど約20人で、おそらく世界一であろう（因みに、日本のノーベル経済学賞受賞者は現在までに1人もいない）。その名門シカゴ大学で、最初に博士号を取得したのが、日本の浅田栄次という人物である。シカゴ大学は、浅田栄次の偉業を讃え、浅田が博士号を取得した1893年（明治26年）6月26日を、その記念日として、今日でも大学のカレンダーに印刷しているのである。

・シカゴへの一本の電話

1987年、シカゴ大学に学んだ私は、大学図書館日本部長の奥泉栄三郎氏から、シカゴ大学における最初の博士号取得者が、日本人留学生の浅田栄次であることを知った。そのことに大変感動した私は、シカゴから一文を日本経済新聞に寄せた。それは、1987年6月11日付日本経済新聞の“21C フォーラム”欄に、「歴史認識と異文化交流—世界的貢献の第一歩」という見出しで掲載された。その中に、「シカゴ大学で最初に博士の学位を取得したのは、日本の浅田栄次という天才的人物で…」という一節があり、これが、浅田栄次のお孫さんの目にとまった。

これに大変感激したお孫さんは、早速、いまだ生存中の老母へこのことを知らせた。胸を衝かれた母は、その娘と共に、父・浅田栄次の学んだ大学にいる私（筆者）を尋ねてシカゴ大学へ行こうということになった。深夜の午前2時ごろ、（日本時間の11日午後4時頃）、まさに草木も眠る丑3つ時、シカゴの私の宿舎（International House）の枕もとの電話がけたたましく鳴った。ぐっすり寝込んでいた私は、びっくりして飛び起きた。不吉な知らせでもなければいいがと願いつつ。「私は、あなたが本日の日本経済新聞にお書きになった浅田栄次の孫で、^{ツチモト}榎本と申します。栄次の3女である私の母は未だ存命中で、このことを話すと、母は父が学んだシカゴ大学を、この目の黒いうちに是非見ておきたい。つきましては、近々、母と2人でシカゴ大学の渡邊さんを訪問したいのですが……」という電話で

ある。

・浅田栄次との関り

かくして、日本から遠く離れた異国での深夜、自室の電話の奥から流れてくる中年女性の昂奮した声に、私の手はふるえ、声はうわずった。まだ、その新聞記事をさえ全然見ていない私は夢ではないかとしばし呆然とした。しかし私は、その1時間程前に、日本にいる妻から、私の書いた文章が日本経済新聞に載っているとの電話があったことを思い出し、これは夢ではない、事実であると考え、ふとわれに帰った。

その電話の主であるお孫さんとは、大阪府豊中市在住の槌本紀子さん（夫君は、当時神戸製鋼所専務、後、日本エヤーブレーキ社長）であり、老母とは、大阪府箕面市在住の清水素子さん（永年神戸女学院大学で教鞭をとられた）である。槌本さんは、私の勤務先へ電話して私の実宅の電話番号を知り、さらに、私の妻のところへ連絡して、私のシカゴでの電話をキャッチされたのであった。

そのころ、私は大学が夏休みに入ることと、所用のため一時帰国予定で、飛行機も手配し、その日までの宿泊料などはすべて精算し、電話機のみ翌朝取りはずすことにしていたが、突発事情により予定をすべて変更して、浅田ファミリーを迎えることにした。

新聞に私の記事が出てから約1週間後の6月19日、浅田の三女の素子さんは、娘の紀子さんを伴って憧れのシカゴ大学へやって来た。私は図書館の奥泉さんと共に、シカゴ大学や浅田が神学を学んだノースウェスタン大学などを案内した。ミシガン湖畔のホテルに着いたのは午後8時を過ぎていた。母子は、浅田が約百年前に学んだ大学をこの目で確かめて、感無量である、夢のようであると速懷された。

・顕彰碑の建立

浅田博士の業績等については浅田の出身地である徳山市の河口昭氏など

があり、詳しくは紙面の都合もあって省略するが、想えば、私が、1978年に日本経済新聞を通じて全国的に紹介して以来ほぼ15年が経過した。その間、浅田栄次資料展示会の開催（1989年徳山市）、シカゴ大学に「浅田栄次記念奨学金制度」の設立（1994年）、東京外語有志による「浅田栄次追懷録」復刻版の出版（1996年）など、種々の行事や研究発表などが行われたが、何といても今回の顕彰碑の建立はビックイイベントである。

東京外国語大学の学長の中嶋嶺雄氏、東京外語会前理事長の鈴木幸寿氏（元学長）、東京外語百周年浅田基金代表の椎木治男氏の挨拶、シカゴ大学総長Don Michael Randel氏の祝辞（シカゴ大学図書館奥泉栄三郎氏代読）、浅田栄次を全国的に紹介した小生のスピーチなどがあり、会場は盛会裡に進行した。なお、会の開式、閉式等会の総合司会は、東京外国語大学副学長の高橋作太郎氏によってスムーズに行われた。

これは、東京外国語大学の歴史にとっては無論のこと、日本の英語研究史上にも永遠に記録されるべき一大事である。

僭越ながら、私がシカゴ大学に留学しなかったら、そこで奥泉栄三郎氏に会わなかったら、新聞に書くチャンスがなかったら、新聞の記事を浅田関係者が読まなかったら、大学関係者が行動を起こさなかったら等々を思いめぐらすと、いずれにしても浅田栄次は偉大な国際人であり、日本を代表する人物であればこそである。思わぬところで偉大な人物の発掘に協力したことにもなり、人の世の奇しき縁を痛感する今日此頃である。



シカゴ大学総長の祝辞を代読する
奥泉栄三郎氏（同大学図書館日本部長）

3. 顕彰碑の概要

顕彰碑そのものについて概要を説明する。大理石で出来ている顕彰碑（高さ2メートル、横1.3メートル、厚さ0.3メートル）の表側には、最上部に浅田栄次の胸像があり、その下に次のような略歴が刻印されている。

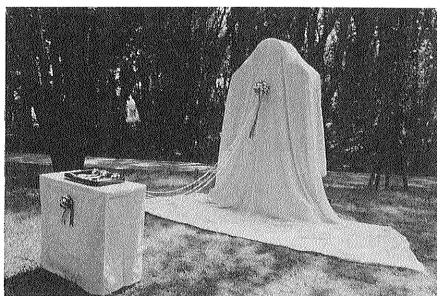
初代教務主任 英語学科主任教授 浅田栄次

浅田栄次は 慶応元（1865）年に周防国 毛利徳山
（現山口県徳山市）藩士浅田信義の長男として生まれた
明治二十一（1888）年 帝国大学理科大学 数学科を
中退し 神学を学ぶため渡米 明治二十六（1893）年
旧約聖書研究に対して シカゴ大学から 同大学 初の
博士号（P h D）を授与された
明治三十（1897）年 高等商業学校付属 外国語学校
設立に際して 英語科教授に就任 2年後に 同校が
東京外国語学校として 独立するにあたり 教務主任
に任ぜられ 校長 神田乃武を補佐して同校の教育体制
の確立に貢献した 多数の優秀な英語教師を育成し
片山寛 古賀十二郎 細江達児 石田憲次 松本阜三志
岩崎民平 鈴木文四郎ら 幾多の逸材を世に送り出した
しかし大正三（1914）年十一月九日 脳出血のため
同校図書館において倒れ 翌十日 逝去した

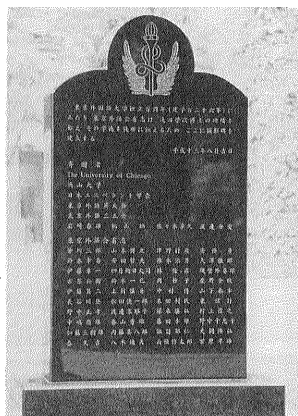
浅田博士はわが国の 英語教育の偉大な先覚者であり
ドイツ語 フランス語 ギリシャ語 ラテン語 古代セム諸語
に通曉し エスペ란トの普及にも尽力した また日本
における旧約聖書研究の先駆者であった

そして、碑の裏側には、最上部に東京外国語大学の校章があり、その下に顕彰碑建立の趣旨、続いて建立に係った人などの名が刻印されている。

その中には、時の東京外国語大学の学長である中嶋嶺雄氏を始め学長経験者などの名が連なっている。大変恐縮ながら、筆者（渡邊金愛）の名前は、東京外大関係者よりも上位に刻印されており、主催者の配慮に深く敬意を表する次第である。



除幕式を待つ顕彰碑



顕 彰 碑

4. 資料

平成13年8月1日、浅田栄次博士顕彰碑除幕式当日、関係者に配布された資料より、“浅田栄次略歴”と“浅田栄次再評価の軌跡”を添付する（東京外語百周年浅田基金 代表 椎木治男氏）。

明治の国際人 浅田栄次博士の顕彰碑建立さる

西暦(年号)	年齢	日付	浅田栄次経歴	東京外国語学校略史
1865 (慶応元年)	0	5月22日	徳山藩士浅田信義の長男として生まれる.	
1873 (明治6年)	8	11月4日		11月4日、東京外国語学校建学.
1875 (明治8年)	10	3月	山口県都野郡徳山村桜馬場小学校に学ぶ.	
1877 (明治10年)	12	6月 9月	山口県都野郡徳山村岐陽小学校(桜馬場より改称)卒業. 同小学校に助導として勤務.	
1880 (明治13年)	15	2月 9月	山口県山口中学校入学(在籍6ヶ月). 広島県広島中学校へ転校(在籍4ヶ月).	
1881 (明治14年)	16	3月	京都府京都中学校へ転校.	
1883 (明治16年)	18	7月	同中学校卒業.	
1884 (明治17年)	19	2月 4月 12月21日	東京英和学校(現青山学院大学)入学. 工部大学校入学. 洗礼を受け、神田メソヂスト教会員となる.	
1885 (明治18年)	20	9月21日		9月21日、東京外国語学校、高等商業学校と合併により廃校.
1886 (明治19年)	21	3月 4月	工部大学校予科卒業. 工部大学校は帝国大学と合併. 第一高等中学校第5年へ転入学.	
1887 (明治20年)	22	6月 9月	同中学校理科卒業. 帝国大学理科大学数学科入学(在籍6ヶ月).	
1888 (明治21年)	23	3月23日 4月 9月15日	米国遊学のため、横浜より出帆. ノースウェスタン大学文学部選科入学. ガレット神学校(ノースウェスタン大学構内)入学.	
1891 (明治24年)	26	5月14日 9月1日	同神学校卒業. ユニオン神学校、コロンビア大学大学院入学.	
1892 (明治25年)	27	10月1日	シカゴ大学大学院博士課程入学.	

1893 (明治26年)	28	5月1日 6月26日 10月1日	学位論文提出。 シカゴ大学初のP h. D (博士号) を授与される。 帰国後、青山学院神学部教授に就任。	
1896 (明治29年)	31	5月	日本メゾヂスト教会信徒代表として、本田庸一と共に米国オハイオ州、クリーブランドのメゾヂスト総会に出席する。	1月、第9回帝国議会にて外国語学校設立が決定される。
1897 (明治30年)	32	5月8日 5月11日 8月27日	滝口みか子と結婚。 東京高等商業学校付属外国語学校英語科嘱託。 東京高等商業学校付属外国語学校教授就任。	4月22日、高等商業学校付属外国語学校が設立される。(本学創立)
1899 (明治32年)	34	7月15日	東京外国語学校教務主任就任。	4月4日、東京外国語学校が高等商業学校より独立。(本学独立)
1902 (明治35年)	37	4月17日	第五臨時教員養成所教授を兼任。	3月29日、東京外国語学校に第五臨時職員養成所を附設。
1903 (明治36年)	38	5月	東京外国語学校図書館規則を制定。	1月、東京外国語学校神田区錦町3丁目に新校舎なる。
1906 (明治39年)	41	6月12日	日本エスペラント教会発足集会に参加する。	メドレー東京外国語学校に就任。
1908 (明治41年)	43	3月	The Monbusho Readers 第1巻(全5巻)。	7月27日、村上直次郎東京外国語学校校長となる。
1909 (明治42年)	44	11月19日	『小学校用英語読本』第1巻(文部省)。	
1913 (大正2年)	48			2月、神田大火にて東京外国語学校全焼。
1914 (大正3年)	49	11月9日 11月10日 11月13日 12月3日	東京外国語学校図書館で脳溢血のため倒れる。午前4時40分、逝去 青山学院講堂にて葬儀が行われる。 『英和和英諺語辞典』(文会堂書店)	
1916 (大正5年)		3月	浅田みか子編 『浅田栄次追懷録』刊行	

浅田栄次の墓は東京外国語大学府中キャンパスにほど近い多磨霊園内1区10種8側55番56番にある

浅田榮次再評価の軌跡

- 1960年 「浅田榮次」昭和女子大学近代文学研究室編『近代文学研究叢書』第15巻.
- 1982年 3月20日 小川芳男他編『英語教授法辞典』(第2版)(三省堂)
浅田を見出し語とし、2ページにわたって生涯と業績を紹介.
- 1986年 7月18日 皆川三郎「在りし日の師弟関係と浅田榮次教授こと」
『明治村通信』第193号.
- 1987年 6月11日 渡邊金愛 「歴史意識と異文化交流—世界的貢献の第一歩」『日本経済新聞』(夕刊)で浅田榮次を紹介.
- 1988年春 The University of Chicago Magazine、浅田榮次を紹介.
- 1988年 6月17日 河口昭 「ディスカバー明治の国際人」『日本経済新聞社』(以後、河口氏は浅田に関する論考を次々に発表し、浅田再評価に多大の貢献をなす).
- 1988年11月 8日 『朝日新聞』(夕刊)、清水素子(榮次三女)が浅田の著書や蔵書を、シカゴ大学に寄贈したことを報じる.
- 1989年 6月30日 徳山市、浅田榮次資料展示会を開催.
- 1989年11月 浅田光彦(榮次三男)『浅田榮次宗教著述(遺稿)』を復刻.
- 1992年 シカゴ大学、創立百周年にあたり浅田の写真を構内に掲げる.
- 1993年 1月 奥泉榮三郎Mid America Guideに浅田関連記事を執筆.
- 1993年 6月11日 シカゴ大学、学位授与式に浅田の遺族を招待.
Chicago Tribune 紙に関連記事.
- 1993年 6月23日 栗木千恵子「シカゴ大学初の博士は日本人」『日本経済新聞』.
- 1994年 3月 シカゴ大学、「浅田榮次記念奨学金制度」を創設.

渡 邊 金 愛

- 1994年 8 月8－9日 全国英語教育学会山口大会「山口の英学百年を現代に活かす」で浅田榮次についてのパネル・ディスカッション.
- 1994年10月9日 NHK山口局、浅田榮次の特集番組「山口面白発見館－英語のルーツは山口にあり」を製作・放映.
- 1994年11月 浅田の遺著『英和和英諺語辞典』復刻（「諺研究資料集成」第十六巻、大空社）.
- 1995年 8 月 7 日 『徳山大学総研レビュー』、第 8 号を「浅田榮次特集」とし、ナシダ・テツオ、皆川三郎、松村幹男、河口昭、岡真、津野行彦らの論文・随想を連載.
- 1995年10月 皆川三郎「浅田榮次博士とその高弟について」『英学史研究』第28号.
- 1996年 2 月28日 東京外語会有志、『浅田榮次追懷録』を復刻し、「浅田榮次を偲ぶ会」を東京中野で開催. また椎木治男の呼びかけで、東京外語百周年浅田基金を設立し、顕彰碑建立のための募金活動を開始.
- 1999年11月 東京外国語大学独立百周年（建学126年）を機に、『東京外国語大学史』を刊行し、浅田の業績を評価.
- 2001年 8 月 1 日 東京外国語大学、府中新キャンパスにて浅田榮次顕彰碑除幕式を挙行、同校付属図書館で浅田榮次資料展示会を開催.

参考資料

- 「浅田榮次追懷録」 （浅田みか子 1916. 3. 28）
「日本経済新聞」 （渡辺 金愛 1987. 6. 11）
「 同 上 」 （河口 昭 1988. 6. 17）
「Mid－America Guide」 （奥泉榮三郎 1987. 9）
「 同 上 」 （ 同 上 1990. 12）
「岐山会・第 4 号」 （徳山高等学校岐山会 1990. 8）
「浅田榮次資料展パンフレット」 （徳山市同展実行委員会 1989. 6）

この小冊子の資料展目録は以下のとおりである。

浅田栄次資料展目録

明治期英語教育関係資料

- 1 *Willson's Primary Speller*, 1863
- 2 『西国立志編（自助論）』, 明治4年
- 3 『ウィルソン氏 英第一リードル挿譯』, 明治5年
- 4 『学問ノ心得 全』(市川兵四郎所持), 明治8年
- 5 Wilhelm Vietor, *Der Sprachunterricht Muss Umkehren!* 1882
- 6 M. Willson, *The Second Reader* (翻刻), 明治17年
- 7 羅布在徳原著, 井上哲次郎訂増『訂増英華字典』, 明治17年
- 8 『ウエルソン第一リードル独稽古』, 明治18年
- 9 Noah Webster, *The Elementary Spelling-Book* (翻刻), 明治19年
- 10 I. Todhunter, *Algebra for Beginners*, 1886
- 11 *National Readers* (1・2・3・4・5, 翻刻), 明治19～21年
- 12 *Parley's Universal History* (翻刻), 明治19年
- 13 米国平文先生譯『和英語林集成』, 明治20年
- 14 『ニューナショナル第一リードル独案内』, 明治20年
- 15 *Swinton's Third Reader* (翻刻), 明治21年
- 16 *Quackenbos's First Book in Grammar* (翻刻), 明治21年
- 17 『正則文部省英語読本』(1・2・5), 明治22年
- 18 Laura Soames, *Introduction to the Study of Phonetics*, 1891
- 19 William Imbrie, *Etymology*, 1891
- 20 F. Gouin, *The Art of Teaching and Studying Languages*, 1892
- 21 「英語直譯」(中学生徒ノート, 和綴), 明治28年
- 22 外山正一『英語教授法』, 明治30年
- 23 H. Saito, *Practical English Grammar*, Vol. IV, 明治32年
- 24 R. B. マッケロー, 片山 寛『英語発音学』, 明治35年
- 25 *Kanda's New Series of English Readers*, No. 3, 明治36年
- 26 岡倉由三郎『英語教育』, 明治44年

履歴関係資料

- | | | |
|----------------------------------|--------|------------|
| 27 下等小学第3級卒業證 | 桜馬場小学 | 明治10年3月 |
| 28 下等小学第2級卒業証書 | 岐陽小学 | 明治10年10月9日 |
| 29 初等中学全科卒業証 | 京都府中学校 | 明治16年7月14日 |
| 30 證 書 | 第一高等学校 | 明治19年7月 |
| 31 卒業證書 | 第一高等学校 | 明治20年7月15日 |
| 32 臨別書(渡米に際し, 徳山にて記す) | | 明治21年3月11日 |
| 33 渡米時のパスポート | | 明治21年3月21日 |
| 34 帝国大学理科大学 Dr. C. G. Knott の證明書 | | 明治21年3月22日 |
| 35 『大学章句』, 『中庸章句』 | | |

- 36 『日本外史』（七，八）
- 37 『詩韻含英異同辯』（一，三）
- 38 『拙堂文集』（一，二，三）
- 39 漢 詩
- 40 工部大学校優等賞として授与された洋書
- 41 『浅田榮次追懷録』
- 42 肖 像 画
- 43 矢立（愛用品）
- 44 弓法拔書，自省録
- 45 小川清次備忘記
- 46 和歌の控え
- 47 短 冊
- 48 『石田憲次歌集』及び短冊
- 49 ジェスト ブック，くじ，判じ物書簡
- 50 浅田自身の人生観をつづった詩
- 51 家計簿（3冊，英語・フランス語・エスペラント）
- 52 日 記（7冊，英語・ドイツ語・エスペラント）
- 53 履歴書（大正3年に書いたもの）
- 54 写 真
- 55 英字イルミネーション（2点，エスペラント運動の同志，E. Gauntlett の作）

米国における関係資料

- 56 渡米後まもない書簡（明治21年5月1日，エバンストンより小川清次宛）
- 57 渡米日記（明治21年8・9月，小川清次宛）
- 58 ガレット神学校案内冊子（1891年度版と1987－90年度版）
- 59 ガレット神学校学籍簿写し
- 60 ガレット神学校写真（3枚）
- 61 エバンストン時代の鉄道料金割引証（聖職者用）5枚とガレット神学校在学証明書
- 62 Japanese Poetry（ノースウエスタン大学誌寄稿論文）
- 63 ガレット神学校長 Dr. H. B. Ridgaway の人物証明書（1890年3月11日）
- 64 The New Orient（ガレット神学校卒業演説，1891年5月）
- 65 *From Epworth to London with John Wesley* (M. J. Ball 女史より贈られたもの)
- 66 Dr. W. R. Harper によるヘブライ語通信教育の添削（31通）とそのテキスト
- 67 Dr. W. R. Harper が浅田に与えた進路助言の書簡（1891年6月4日）
- 68 コロンビア大学大学院履修科目登録簿（1891年10月19日）
- 69 コロンビア大学大学院に於ける履修証明書（1892年4月28日）
- 70 ユニオン神学校 Dr. Briggs の講義録2冊と浅田宛書簡
- 71 The Titles of the Psalms（ユニオン神学校提出論文，1892年4月）
- 72 シカゴ大学初代総長 W. R. Harper の書簡（1892年6月20日）
- 73 The Prophet Isaiah in His Relation to the Politics of His Time（シカゴ大学大学院在学中のエッセー，1892年11月11日）

- 74 井深明治学院総理との就職交渉の書簡 (1893年)
- 75 浅田栄次学位論文 (シカゴ大学第一号の ph. D. 1893年)
- 76 W. R. Harper 総長書簡 (浅田帰国後, 1894年 2月13日)
- 77 シカゴ大学で浅田と同期であった E. J. Goodspeed 同大学教授書簡
(浅田没後, 東京外語教授吉岡源一郎宛, 1915年 8月11日)
- 78 シカゴ大教授 T. G. Soares の追悼文 (遺族宛, 1915年 8月)
- 79 シカゴ大学 S. Mathews 教授書簡 (外語教授吉岡宛, 1915年10月12日)
- 80 T. W. Goodspeed, *A History of the University of Chicago* (1972年, 初版1916年)
- 81 *The University of Chicago Magazine* (1915年)
- 82 *The University of Chicago Magazine/Spring* (1988年)
- 83 シカゴ大学カレンダー (1987年) (渡邊金愛氏寄贈)

東京外国語学校等関係資料

- 84 神田乃武書簡 (2通) 明治30年 5月 8日
- 85 高等商業学校英語講師嘱託任命証 明治30年 5月11日
- 86 高等商業学校付属外国語学校教授任命証 明治30年 8月27日
- 87 東京外国語学校教務主任任命書 明治32年 7月15日
- 88 東京外国語学校第一期生名簿 明治30年11月調
- 89 文部省専門学務局長上田万年宛, 校長神田の書簡 (浅田書) 明治32年10月29日
- 90 東京外国語学校図書館規則草案 (浅田の朱筆入り)
- 91 東京外国語学校第一回卒業生諸氏ヲ送ル 明治33年 7月
- 92 一年級生徒二告グ
- 93 村井知至英文書簡 明治33年 6月27日
- 94 同窓会員名簿 明治35年 7月調
- 95 明治37年度卒業生徒採用依頼書とその送付先一覧
- 96 平和克服ノ暁ニハ如何ニシテ学校ノ将来ヲ経営スベキカ 明治38年 ?
- 97 東京外国語学校創立十年記念会施行手続き 明治40年
- 98 懸賞校歌 明治40年
- 99 津田梅子書簡 明治41年 4月 9日
- 100 入学者一覧 (東京外国語学校 明治40年, 41年, 42年)
- 101 Suggestions to Teachers
- 102 浅田の指導テキスト (3冊)
- 103 R. McL. Cumnock, *Choice Readings* (エロキューションの講義に用いたもの)
- 104 English Men of Letters (ノート 5冊)
- 105 English Literature (ノート 1冊)
- 106 浅田が使用した各国語語学書 (7冊)
- 107 十五年間の苦楽
- 108 浅田が作った英語の定期試験問題 (大正 2, 3年)
- 109 東京外国語学校職員表及び『東京外国語学校一覧』
- 110 感謝状及び記念品贈呈者名簿 (創立15周年祝賀会に於いて) 大正 2年 8月 3日
- 111 『東京外国語学校英語科同窓会会報』第 4号 大正 2年12月31日
- 112 追悼ノ辞 (村上直次郎校長) 大正 4年11月 9日

- 113 To the Memory of the Late Prof. Asada (T. Kamijo)
- 114 女子教育改善の提案 Miss Lewis (青山女学院) 宛
- 115 浅田逝去に際し M. C. Harris (青山学院) の追悼文
- 116 恩師の思い出 (英文) M. Nishikawa

英語関係資料

- 117 Semitic Languages
- 118 English Languages
- 119 Confucianism and Buddhism as Instruments of God
- 120 The Future of the Japanese Language and Literature
- 121 A Short History of the Decipherment of the Cuneiform Inscriptions
- 122 My Native Village
- 123 LINCOLN ANNIVERSARY (*The Japan Times* 記載)
- 124 A Letter from professor Asada (『中外英字新聞』記載)
- 125 田舎めぐり (文部省視学委員視察記)
- 126 東京以北に於ける中等学校の現状
- 127 Difficulty of Speaking English
- 128 English Teaching in Middle Grade Schools North of Tokyo
- 129 How to teach English in Japanese Schools
- 130 Common Faults of Japanese Teachers
- 131 女子と外国語
- 132 Opening Address at the Inter-collegiate Literary Exercises
- 133 The Opening Address at the Chuo English Speaking Exhibition
- 134 高等小学校用英語教科書編纂方針
- 135 『小学校用文部省英語読本』原稿
- 136 *The Mombushō English Readers for Elementary Schools* (1・2)
- 137 『小学校用文部省英語読本巻一教授書』原稿
- 138 『小学校用文部省英語読本巻一教授書』
- 139 *Asada's English Readers* (1・3・4・5)
- 140 *Asada's English Readers* 編纂資料
- 141 浅田英語読本採用依頼状
- 142 *Asada's Practical Readers* (1・2・3・4)
- 143 『浅田プラクチカルリーダー』第一巻「緒言」草稿
- 144 『浅田プラクチカルリーダー参考書』及び原稿
- 145 THE IMPERIAL PRECEPTS TO THE SOLDIERS AND SAILORS OF JAPAN
- 146 THE "BOSHIN" IMPERIAL RESCRIPT
- 147 『英和・和英諺語辞典』及び緒言原稿

エスperanto関係資料

- 148 Esperanto-An International language
- 149 NECESSITY OF AN INTERNATIONAL LANGUAGE
- 150 Bonveno-Parolado por Prof. Gauntlett (1906年7月23日)

- 151 La Estonto de Esperanto en Japanujo (1906年8月9日)
- 152 Kial ni devas lerni Esperanton?
- 153 LA JAPANA ESPERANTISTO
- 154 『エスペラント日本語辞書』(共編, 明治39年)
- 155 A. Motteau, *Esperanto-English Dictionary* (『エスペラント日本語辞書』編集に使用)
- 156 L. L. Zamenhof, *Krestomatio de Esperanto*
- 157 La Langtondita Pasero
- 158 エスペラント漫画
- 159 エスヘボラント葉書・書簡(12通)
- 160 横須賀エスペラント支部会大正三年度年報(写し)

神学関係資料

- 161 *Holy Bible*. (『舊新約全書』)
- 162 *Gospel Hymns* Nos. 1 to 6, *Triumphant Songs* (賛美歌)
- 163 浅田帰国直後の説教日誌(明治26年)
- 164 『六合雑誌』4冊(浅田論文掲載)
- 165 『神学評論』(第2巻第4号, 「ユダヤ教の起源及発達」)
- 166 和訳聖書訂正の必要
- 167 高等批評トハ何ゾヤ
- 168 洪水論
- 169 聖書文学ノ目的
- 170 希伯来ノ詩学
- 171 新約ニ於ケル旧約引照
- 172 聖書ノ三良友
- 173 学生ノ宗教
- 174 楔形文学
- 175 基督以前ノ信仰ト基督以後ノ信仰
- 176 高等批評ノ真面目
- 177 旧約教典ノ起源及発達
- 178 旧約預言一 総論よりダビデまで
- 179 旧約預言一 エリヤ, エリシャより
- 180 約百記註釋一
- 181 詩篇註釈 希伯来原本ニ拠ル
- 182 旧約教典論
- 183 以賽亜書註釋
- 184 旧約聖書緒論 預言
- 185 旧約聖書緒論 聖録
- 186 旧約聖書緒論 六書
- 187 猶太歴史
- 188 希伯来書註釋
- 189 雑題講義

渡 邊 金 愛

- 190 ダビデノ死ヨリ南朝滅亡ニ至ルマデノ詩篇
- 191 七十人訳
- 192 福音書のメシヤ
- 193 説教題（神学生ノ需ニ応ジテ作ル）
- 194 聖書地理

浅田榮次資料展

期 間：1989. 6. 30（金）～7. 9（日）

会 場：徳山市立中央図書館

資料提供：浅田家，シカゴ大学，広島大学

主 催：徳山市，徳山市教育委員会

主 管：徳山ユネスコ協会，浅田榮次資料展実行委員会

後 援：山口県，山口県教育委員会，日本英学史学会広島支部